◆　立川都税事務所長賞　◆

「『税金』による幸せへの近道」

西東京市立田無第四中学校　３年　古野　瑛翔

この間、参議院選挙があった。塾の前の通りに選挙カーがあり、さまざまな方が演説をしていた。その中で、「増税をやめて、減税をするべきだ」という演説を耳にした。私は小さい頃から「水を出したままにしない」「トイレを流す回数は少なくする」とよく言われていた。「税金によって支えられているからね」と教えられていた。だから、「減税をするべき」という意見に対して少し恐れもあった。社会は税金によって支えられている。ということを学校の社会の授業で学習した。私たち未成年者にも関係のある消費税が、令和元年の 10 月に８パーセントから 10 パーセントに引き上げられたがニュースを見たり、自分の周りの人に聞いたりしたら、消極的な意見が多かった。なぜ日本人は、税負担の増加に批判的な面もあるのだろう。

その理由に、税金がどのような方法で使われているのかが分かりにくい。ということがあると思う。学生は教科書や実験器具、大人は車やバイクを運転する際の道路などで、税金による恩恵を受けている。しかし、あたり前のことだと感じて、それが税金のおかげ、と意識できている人が少ないのだろう。では今度は、目に見えるようにする必要がある。

日本は消費税が 10 パーセントだが、世界にはもっと高い国がたくさんある。その中で、私は、フィンランドの税の仕組みに驚いた。というのも、消費税は 24 パーセントと、とても高いのに、国民の大半が満足しているのだ。それは、福祉サービスや医療制度が充実している、目に見える形で税金が多く使われているからだ。そのためか、フィンランドは幸福度（幸せの量を数値化したもの）が世界中で最も高いとされている。

私は、もちろん税の負担が大きいことは、不満であると思う。私自身中学生だが、消費税で税と接している人として、納得できるところもある。しかし、この不満が起こる本当の理由は、高くもなく、低くもない税率ではないかと思った。高い場合、スウェーデンのように国民にも目に分かる良いことが増える可能性が上がる。すると、皆で幸せになれる。逆に、税率が低い場合、納税の、義務の負担は少なくなる。代わりに、今まで税金で賄ってきたものが賄いきれなくなり、結局不満が発生してしまうだろう。

私は、増税をすることには賛成だ。しかし、そこには国民も納得できる理由があってこそだと思う。近年の日本は、少子高齢化が急激に進行しているため、高齢者一人当たりを支える負担が大きくなっている。私たち中学生も、これから社会を支えていくから、税金について今のうちに学ぶことが大切だと思った。両親や祖父母も健康で生活できるように、福祉サービスや医療制度を税によってより充実させていきたい。自分のはっきりとした考えを持って、社会を担っていきたい。